

■ 今月のメッセージ(2010年10月)

日本銀行富山事務所長

水上 誠一

「数字は苦手」という人が多い。しかし、そういう人は往々にして、数字やグラフを示されると、何かとても客観的に感じ、納得してしまうといいます。これは、私の任務の一つである「金融広報」の観点からすると、非常に危険な兆候です。

人間の性(さが)として、数字をよく見せたい、自分に有利な形で相手に解釈させたい、という気持ちが起こることは避けられません。その度が過ぎると詐欺や嘘つきになってしまいますが、そこまでの幅は結構広いと自覚していた方が身のためです。

例えば、株主に每期送られてくる業績報告書ですが、最近売上が伸び悩んでいると言われているある会社の「売上高推移」をみると、3Dの立派なカラーグラフで、いつも右肩上がりになっている。おかしいなと思いながら目をこらすと、縦軸の目盛の原点がゼロではない。そう。目盛が途中の数字から始まるために、わずかな変化がグラフ上は大きな変化として見えるわけです。確かにウソではありませんが、見落とすことを期待していたのではないかと思われても仕方のないところです。少し良心的な会社なら、原点をゼロにしたうえで、途中を波線で省略したりしていますが、下心に大差はないと言えるでしょう。

一時「利己的遺伝子」というのが話題になりましたが、世の中に出てくる数字は「利己的数字」として「数字が苦手」の人に勘違いをしてもらうよう、襲い掛かってきているのです。そこから身を守る道具の一つが電卓です。どの携帯にも付いていますから大いに活用しましょう。上述の「売上高推移」について言えば、グラフに添えられた今年の数字と前年の数字を使って伸び率をはじめてみると、グラフのイメージでは2割増くらいに見えたのが、実はわずか1%増だったりします。

前年(期)比(%) = {今年(期) ÷ 前年(期) - 1} × 100 <この式覚えていますか? >

また、毎日の新聞で、疑問が起こったら電卓をたたいてみましょう。例題を出しますので、是非計算してみましょう(各問のカッコ内は参考価格等。答えは表示していません)。

①原油価格が問題になるけど、単位がバレルで実感がわからない。500ミリペットボトルではいくら?

(1バレル=77ドル×84円/ドル、1バレル=159リットル<=500ミリボトル318本分>)

— ペットボトルのお茶の値段に比べてどうですか。この価格が大量消費社会を支えています。

②中国の外貨準備高がよく話題になるけど、肝心の日本の外貨準備高の含み損益はいくら?

(推定原価=110円/ドル、現在84円<1ドル当たり26円差>、外貨準備高=1兆700億ドル)

— 原価が公表されていないので仮定の計算ですが、あなたの評価はどうですか?

③中国というと、失業率が2009年で4.3%、900万人余りとのことだが、中国の労働人口は?

(失業者数<9,000,000> ÷ 失業率<0.043> = 労働人口)

— 少なくありませんか? これは都市部の失業登記の数ということですが、失業実態は不明です。

どうでしたか? 電卓を叩いて分かることは意外に多いですよ。今日から電卓片手に新聞を読みましょう。利己的な数字に負けないように。経済政策の良し悪しも数字で議論しましょう。

なお、日銀HPの「時系列統計データ検索サイト」では、主要指標グラフがワンタッチで見られるほか、ご自身でのグラフ描画も簡単にできるようになりました。どうぞご活用下さい。